

(11) 令和6年度 磐田市立豊田南小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	評価(%)			自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から	
			子供	***	教師				平均
	自信を育む学校	よいと思ったり考えたりしたことを、自分から行動したり言葉などで表したりすることができたか。(90%)	91	93	100	94	A	<p>○ 教育課程全体がすべて見取れる「グランドデザイン」、「南小の一年」の活用により、学校教育目標具現のための手立てを視覚的に、教師が意図的に指導できるようにした。また、本校の子供に付いた資質・能力を「主体性とたくましさ」と押さえ、授業を核とした学校生活全体で、子供が主体になる活動を意図的に設けた。9割の子供が自信をもって行動できたことと答えた要因には、様々な教育活動の中で学習面にも生活面にも通ずる「自分から」というキーワードが十分浸透していることが挙げられる。</p> <p>※ 今年度も全学級で「目指す授業像」を設定することで、教師も子供も授業を核とした主体性を育む教育活動を全校で推進することができた。主体性の育成を意識することができたため、次年度も継続する。また、主体性の育成を校内研修構想と密接に関連付けて推進する。今後より、素直でやさしい、上学年や下学年をわたることができるといふ子供のよさ（強み）を伸ばしつつ、失敗を恐れず、仲間と共にたくましく活動できるよう、教育課程のマネジメントと教師の指導力向上に力を入れていく。</p>	<p>・1年を通して、子供たちが「自分から」行動することができるように日々成長する姿を見ることができた。これは、先生方が日頃から子供たちに対して声掛けなどで「自分から」行動することを意識している結果だと思う。この「自分から」という力は、ポテラ子にとっけかけがえのない資質であり、行動である。それを育むカリキュラムの基礎となることは、豊田南小にとって大きな強みである。今後とも子供たちが「自分から」行動できる子になるよう育成を継続してほしい。それと同時に、私たちPIAもこの取組に今まで以上に深く関わり、これまで以上に子供たちの「自分から」に対して応援する組織となれるようにしていきたい。</p> <p>・子供、保護者、教師全てで評価が良く、学校全体で取り組んでいる様子が見える。</p> <p>・グランドデザインが大分分かりやすく「自分から」のキーワードが子供にも職員にも浸透していることがよく分かる。</p> <p>・「主体性」という言葉が一人歩きしないよう授業展開の具現化が図られている。</p> <p>・こども園と相互理解をすることで、より一層、主体性の育成を意識できる。こども園としても大変勉強になるので、互いの保育（授業）公開の垣根をさらになくしていきたい。</p> <p>・音の子供たちは、やりたくてもなかなかやれないという引っ込み思案の子が多かったと思う。今の子どもたちが自分から積極的に向かっていくと9割以上の子供が考え、大変だ、大賛だ、と答えてくれた。</p> <p>・教職員のみならず子供達に分かり易い目標を設定して、それを子供達に伝える学校全体で目標に取り組んでいる姿勢が感じられる。子供達の自主性を尊重することで「自分から」という自信を持つことができたことの結果である。最近の大人は自信を主張する一方で、他者へのいたわりという面が弱くなっていくと感ずるのと、合わせて指導していただければと思う。</p> <p>・教育目標を具現化するための計画、実践が丁寧に行われているため先生方の資質が高く、質の高い授業が行われているのだと感じる。先生方の評価も100%であることから、達成感を感じながら自信をもって教育して下さり、保護者としてもうれしい限り。子供たちの自己評価も高いことから教育目標は達成できたと思う。</p>
学び合い（知）	学び合いを通し、自分から学習に向かう子の育成	あなたのクラスはみんなの意見を聴き合っているか。(85%)	91	-	87	89	A	<p>・「自分の成長に気付く」のは低学年は、特にまだ大人の認め言葉で気付かされることが多いと思うので、こども園でも大切にしたいと思う。</p> <p>・「あなたの…」の評価指標に対して、子供の評価が教員の評価より高いことが何よりである。また、目指す授業像があることにより、子供たちが授業にどう取り組めばいいか共通認識を持つことができ、とてもいいと思った。子供たちが思わず考えたくなくなった取組もこの評価につながっていると思う。そして、早くこのように伝えられることも重要である。学び合いを通じ自分の学びを伝えることが今以上に育ってほしいと願っている。</p> <p>・「自分から」「どうして」を友達の話し合いの中で見つけていくことができ、素晴らしいことだと思う。日常生活を含め、すべてに必要な言語力を高めるべく学級風土をつくってほしい。</p> <p>・受け身の授業ではなく、自分から考え、気付くことができる子供を育成できたことは素晴らしい。このようなスタイルで授業を行うには、先生の粘り強い指導が必要で、時間も必要になると思われるので、先生方の負担も大きくなる。けれども、社会人になってからも疑問に思ったことを発言できたり、課題に気付く力が非常に大切なことなので来年度も継続して取り組んでほしい。</p> <p>・授業参観の際、隣の席の友達と、同じ班の友達と等、話し合う姿を見ることが多く、先生方の意図を感じることができ、知識をつまみ食いではなく、学びの過程を大切に、自分の意見を相手へ伝える、伝えるように話をすること、子供たちは自身の考えを聞き、受け入れる等、大切な経験だと思う。授業形態も学び合う時間があるとメリハリが出て、子供たちも楽しく学ぶ姿を見られると思う。「友達の考えから学んでいるか」の評価も高いことから効果的であると考える。</p>	
		授業の中で、「自分から」や「どうして」が生まれたか。(80%)	90	-	96	93	A		
		友達の考えから学んでいるか。(90%)	92	-	92	92	A		
		学習を通して、自分の成長に気付いたか。(80%)	87	-	-	87	A	<p>※ 来年度も引き続き、知の部の重点目標を「学び合いを通し、自分から学習に向かう子の育成」とし、目指す授業像を子供と担任で作りに上げていく。具体的には、子供が思わず考えなくなるように課題や発問を工夫したり、学んだ内容を友達に説明したり記述したりする等の取組を進めていく。また、校内研修の主題を「子供が主語になる授業づくりー問いが生まれる授業ー」とし、「国語科」を窓口とした授業改善と学級の風土づくりに注力する。</p>	
認め合い（徳）	認め合いを通し、自分から関わる子の育成	学校や地域で挨拶や会釈を進んで行っているか。(90%)	90	78	87	85	B	<p>○ 「認め合いを通し、自分から関わる子の育成」を目指し日々の指導に取り組んだ。委員会活動やPIA挨拶運動、中学生による学級挨拶運動の日にシールを配りながら価値付けを行った。子供の意識向上に一定の効果があった。一方、保護者の方の評価は、例年同様、他に比べて低かった。</p> <p>○ 授業中、帰りの会等で子供同士の認め合う場、よさを伝え合う場を設定している。個々の頑張りが友達によって言語化・共有化されることで、自分のよさや成長に気付く子供が増えた。引き続き、子供のよい表われを教師が継続して価値付け、よいところに目を向ける力を付けていく。</p> <p>※ 来年度も引き続き、知の部の重点目標を「認め合いを通し、自分から関わる子の育成」とする。委員会、職員、PIAが挨拶運動を積極的に企画、開催をし、子供たちが挨拶のよさを感じられるように挨拶運動の日には挨拶シールの配布を行う。昨年度に続き、授業の中でも友達とのよさを認め合う場、伝え合う場を設ける。話して伝えるだけでなく、いろいろな伝え方があることを教師が説明するとともに、授業以外の場でも良いを見つけている子を教師が取り上げて価値付ける。また、全校でよさを認め合う「自慢大会」を、委員会活動で企画、開催をする。</p>	
		友達のよさを見つけ、友達に伝えていくか。(90%)	85	96	100	93	B		
		自分の行動を振り返って、自分のよさや成長に気付くことができたか。(85%)	88	90	96	91	A		
鍛え合い（体）	きたえ合いを通し、たくましい子の育成	外に出られる日は、外で元気に体を動かしているか。(90%)	81	78	96	85	B	<p>○ 「きたえ合いを通し、たくましい子の育成」を掲げ、子供たちが「元気に心と体をきたえよう」を目指した。今年度初めて実施したスポーツフェスティバルでは、楽しみながら運動に取り組む、達成感を味わうこととをねらいとして実施した。運動の得意不得意に関係なく、自分から参加種目を選択し、練習や当日の競技に取り組むことができた。持久走記録会でも、子供たちが自分合った目標をもって距離の選択をし、練習などに励むことができた。自分で目標を考えること、自分から選択することが運動しようとする気持ちを後押ししていると考えられる。健康面の取組では、養護教諭による学級統一の活動「心の天気」を継続して行っている。体育スクールのカウンセラーによるこの取組は、ありのままの自分を見つける機会となり、子供たちの拠り所になった。</p> <p>※ 来年度も引き続き、体の部の重点目標を「きたえ合いを通し、たくましい子の育成」とする。子供が主体になるようにスポーツフェスティバルや持久走記録会を企画するとともに、委員会を中心にスポーツイベントを企画開催する。引き続き、健康で安全安心な学校生活を送ることができるよう、安全の日、分回会、健康の日等を年間の中に意図的に設定するとともに、それぞれの会の中で自らの学校生活を振り返る機会を作り、健康や安全への意識を高めていくようにする。</p>	
		自分に合った目標をもって体育の授業や体育行事に取り組んでいるか。(90%)	91	87	100	92	A		
		健康や安全を意識して生活していますか。(90%)	94	87	96	92	A		
		友達と競い合ったり、励まし合ったりして心と体を強くしているか。(85%)	91	-	100	95	A	<p>・スポーツフェスティバルや持久走記録会など、自分の得意に焦点をあてたり、自分で何にチャレンジするかを決めることができる取組は、とてもいいと思う。一方、子供に選択させることに重きを置くことで、「自分から」だけでなく、「失敗したくない」といった挑戦しない子、逃げた子も出てきてしまうところ。ここでは柔軟な育成も難しくなってしまう。時代錯誤かもしれないが、ときに厳しさを指導してほしいと思う。</p> <p>・心の成長に関しては、「心の天気」が拠り所となっているようであり、自己理解は他者理解、自分の感情を知ることで他人の感情も想像できるようになるので、自分を見つける機会があることは何よりであると思った。</p> <p>・子供たちが「自分で選択」できるスポーツフェスティバルは子供たちにとってやる気と責任感が持てて良いと感じた。</p> <p>・スポーツフェスティバルという新しい取組は良かった。</p> <p>・大人が「どうあるべき」を教えるのではなく、自分から分かった、こうしたい、どう学びたいのスタイルがとても良いと思う。</p> <p>・ポテラ子体操カードを使っているところ、子供たちが積極的に体操をしていた。柔軟性や持続力向上が分かりやすい。引き続き、屋内で柔軟性を高める運動に励む子が多く、身近な大人として見守ってほしい。</p> <p>・新しい形の体育祭、持久走大会も今の時代では必要なのだろうと理解はできるが、自分の目標設定だけでは低いレベルにならないうまくないが心配。更なる高みを目指すことも大事と思う。</p> <p>・競争ではなく自己達成感を持たせようとして新しい試みを感じる。成長期の中で相手との競い合いより自分を伸ばすのではなく、昨日の自分と競い合い、成長する自信を付けていくことで成果が上がっていくのではないかと。外での活動については、子供達の問題（ゲーム大好き）だけではなく、地域（体を動かせる場の整備）や保護者など、社会全体でいかに必要がある。</p> <p>・スポーツフェスティバルや持久走大会等、ねらいに向かって実施方法工夫していることが多かった。「自分に合った…」の項目の保護者評価が高いことから先生方の思いが伝わってきているのではと思う。（子供の姿から良さや効果を感じている）</p>	

一人一人を大事にする教育	学校に相談できる友達や先生がいるか。(90%)	93	93	100	95	A	○ 学校経営目標に「つながりを大事にし、自信を育む学校 <思いや期待に応える>」を掲げ、すべての教育活動を通じて子供や保護者、地域の思いに応えることを意識してきた。特に、学級・学年経営では、学級に居場所をつくることや子供のよさを価値付けることに努めた。生徒指導課題では、丁寧な初期対応と組織対応を行った。特別支援教育においては、年度初めに子供の特性を全教職員で共通理解し、多様な表れや困り感に寄り添うことを心掛けてきた。これらの教職員の丁寧な取組が、子供・保護者に伝わったと考える。 ※ 今後も子供理解に努めつつ、SGやSSWなどの専門家や子ども若者相談センター等の外部機関と連携して、一人一人を大切に教育を積み上げていく。	・校長先生が常々仰っていた「思いや期待に応える」という気持ちに至る所で感じるができた。PIAとしても見習っていた。そんな中(子供と教師の間で大人になり意見の相違があることは仕方がないが)子供たちから先生によって依怙鼻息のような見方や関わりを関する先生がいると耳にすることがあった。先生方が様々な取組をしてくださっていても、子供たちがそのように感じてしまうと、指角の取組が意味を持たなくなってしまう。今後も、子供たちの特性に目を向けたり、居場所を作ることを意識して取り組んでほしいと思ふのと同時に子供たちから先生による依怙鼻息を感じないようよう、子供たちが今以上に先生方を信頼できるように意識してくださるとありがたい。 ・学校に相談できる友達と先生で分けて評価することは可能でしょうか。高評価でとても素晴らしいのですが、友達と先生では立場が異なるので少し疑問に感じる。 ・今後の手立てについて、専門家から学べる事もあるので、とても良い取組だと感じる。 ・先生への信頼が高いので、安心感のもと子供たちも「自分たち」という姿勢になると思う。 ・自分が大切にされているという意識は学びの根源だと思う。土台作りがきちんとされたいで安心である。 ・自分が友達や先生に寄り添える場となっていると9割以上の子たちが感じていることは素晴らしいと思う。 ・早期発見、早期対応による早期対応ができるよう組織的に取り組んでいることから、生徒が充実した学校生活できる環境が整い、保護者にも取り組みの意図が十分に伝わっているのだと思う。 ・先生方が子供一人一人のことをよく見ていることに感謝。それが子供や保護者に伝わる。
	先生は自分のことを理解し、大切にしてくれるか。(90%)	93	93	100	95	A		
学府共通	目標(めあて)をもち、よりよくなるうと、あきらめずに取り組んだか。(90%)	92	89	96	92	A	○ 井通・青城学府では、今年度も学府の子供たちの課題である「打たれ弱さ」を改善するために、「レジリエンス(しなやかなたくましさ)」の育成を目指してきた。3校の合同研修会では、子供たちをよく知るスクールカウンセラーから講話を聞き、大人(教職員)が「傾聴」することの大切さと「レジリエンスが低くても肯定すること」の必要性を学んだ。アンケート結果や、研修後の振り返りからは、本研修を日々の指導に生かしていることが分かる。レジリエンスの内容はPIA学府合同保健委員会でも扱い、便りを通じて全保護者に発信した。また、本校における学校保健委員会では、「子供の心の成長と親の関わり」をテーマにスクールカウンセラーの講話を伺い、子供との関わりの中での親の悩みにについてグループ討議をしたり、カウンセラーから直接アドバイスをいただいたりする機会を設けた。これらの継続した活動が、子供を取り巻く大人の意識を変えていくと考える。 ※ 「レジリエンス」の育成は、校内の取組だけでは十分でない。今後も、家庭と連携の上、学府3校で同歩調を進めている。	・レジリエンスの育成には、成功体験の積み重ね(大小に関わらず)を実感させることが重要と思っている。それと同時に、自分のことを認めてくれると実感することも大切であると思っている。そして、これは大人でも難しい。傾聴するといった技術も大切だが、大人が実際に傾聴する姿を見せることも大切だと思うので、そうした機会をPIAが作ればよかった。また、PIAとしては保護者同士が悩みを相談する場として懇談会が充実するように取り組んでいきたい。 ・2学期の終業式が6年ぶりに体育館で行われたとのことで、改めてコロナ禍の影響の大きさを感じた。既に通常の生活をしているが、コロナ禍前とは社会の様子が変化してきている。子供たちは、当たり前の環境を受け止めて生活しているが、学校や家庭など大人が柔軟に対応する姿を見せた結果であると思う。一方、変化する社会にとまどう人たちがいることも知ってほしい。 ・打たれ弱さの現状としての登校拒否児童の現状はどうなっているのか。子供、保護者、教師と視点に差があることは理解の仕方の違いか。 ・人と比べないで自分のありのままでもいいという思いで子ども園で心構え、意欲、態度を視点に、育ちの共有を子供たちとしていてほしい。 ・精神的に未熟な小学生にレジリエンスを持たせることは、教育者や家庭においても大変なことだと思う。「傾聴」することが大切なのは分かるが、多くの子供達を指導し、時間的制約の生じる学校だけでは大変なので、保護者も一体となって取り組んでいく必要があると思う。 ・子供たちの課題に対して、熱心に研修し、ありがたい。レジリエンスの育成には傾聴と肯定が大切であることを家庭で継続的に意識、実践できるといい。懇談会時に大切さを共有できる場があると、子供たちの成長につながる。
	周りの人や出来事をしなやかに受け止めることができたか。(90%)	90	87	93	90	A		
	自分のことを大切にしていたか。(90%)	92	98	100	96	A		
地域とともにある学校	本校が目指そうとしている子供の姿や教育内容が分かっているか。(90%)	-	88	-	88	B	○ 参観会での授業公開や学年・学校便りや本読みカード、ホームページ等の手段により、子供の成長や学校での取組を学校教育目標に関連付けて発信した。また、「開かれた教育課程」の考えのもと、学校が行っていることを分かっていただけよう、授業や行事の際は積極的にポプラっ子サポーター(保護者ボランティア)に協力を呼び掛けた。学校への理解と協力的性の高い地域であり、登下校時には多くの見守りボランティアが子供の安全を見守ってくれている。本校の様子や保護者・地域に伝わるとともに、今後も本校が目指そうとしている子供の姿や教育内容の周知、発信を図っていく。 ※ 今後も「思いや期待に応える学校」を念頭に置き、保護者・地域住民との信頼関係を構築していくよう、全教職員が真摯に教育活動に取組む。学校評価や日々の要望など、保護者の声は学校をよくするための思いだと受け止め、教育活動に反映していく。また、学府教育とコミュニティースクールを基盤にし、協働の取組を進めていく。	・ブログやコドモンといった発信、学校からの案内などで子供たちのリアルな姿も見ることができたり、お便りからは学校が今、何を目標にしているか知ることができた。そして、ポプラっ子サポーターが少しでも教育活動のサポートをしていたようで何よりだった。来年度、PIAとしてはボランティア活動が更に充実するよう地域に仕組みを構築しているの、ボランティア活動を通じ、これまで以上に学校のサポートができればと思っている。そして、地域との関わりも大切にして、子供たちの成長を支えていきたい。 ・地域の子供会では「子供会と高齢者サロンとの交流会」「クリスマス会」「豆まき会」などが行われ、今後は6年生と新1年生の歓迎会も計画されている。多くの子供たちが各行事に参加し、異年齢の子や大人とのふれあい楽しむ機会となっている。子供会役員となっている保護者の工夫がなされ、学校の取組につながっていると思う。 ・未来の館田市を築いていく礎となる子供たちを地域でもしっかりとサポートできるように協力していきたい。 ・地域的に子供たちへの安全、教育サポート力が高いと感じる。豊田南小の職員の皆様、温かく受容力のある姿勢が伝わっていると感じる。朝早く校内、安全確認をしていたり、子ども園の環境に目を配ったりし、ありがたい。 ・子供達から愛される地域になるように、地域でできること(見守り活動)をしているが、高齢化が進み維持に苦慮している。 ・協議会の実施事業では、中学生ボランティアを募集すると、他地区と比較して井通地区は豊田南中学校の生徒さんからの応募が各段に少ないという現状。小学生のうちから地域愛を育む発信をしていただければありがたい。保護者のみなさんには健全育成会に参加することで、子供達に身をもって地域活動の大切さを示していただき本当に感謝している。 ・先生方の真摯な姿勢は十分に保護者や地域に伝わっている。そのため、保護者、地域ボランティアが多いと思う。 ・参観会以外にもポプラっ子サポーターが充実することにより、日頃の子供の姿を保護者が見ることができ、学校が身近な存在になると思う。また、PIAとしても先生方の手助けを少しでも行うことで、先生方が心身共に元気に子供たちと過ごしていただきたい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

「子供が自分から行動できること」の重要性について熟識が交わされた。共通認識を持つ資料があったことで、目標に向かって取り組めたと評価し、子供の成長が見えた。特に挨拶については、多くの意見が出た。現状として、挨拶の習慣が十分に定着しておらず、PTAの挨拶運動も「役員の仕事」となっていることが課題とされた。見守りボランティアの声かけに応じない子も多く、大人が積極的に関わる必要があると指摘された。一方で、挨拶の意味を理解することが重要であり、ハイタッチや握手など多様な方法を活用することも提案された。また、子供の成長についても話題となり、授業参観では6月時点よりも子供たちの姿勢が大きく成長していると報告された。さらに、相談環境の課題も指摘され、友達や家庭での相談の機会を増やす必要があるとの意見が出た。全体を通じて、「子供が自ら行動できる力を育む」ために、学校、家庭、地域が一体となることの重要性が再確認された。